

特定非営利活動に関する外部評価の評価項目について

評価対象法人	特定非営利活動法人 FaSoLabo 京都
評価実施年月日	令和6年6月20日
評価者氏名（職名）	杉岡 秀紀（福知山公立大学地域経営学部准教授）
評価対象年度（期間）	令和5年度（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

1 法人の事業活動、組織運営等に関する状況

（1）事業活動について

ア 事業計画等を策定しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 各事業年度の事業計画は、組織的な合意形成（総会・理事会等）に沿って策定しているか。	■	□	■	□
② 法人の目的を達成するための中長期的計画を策定しているか。	■	□	■	□

イ 法人の目的を達成するための事業を主たる事業として実施しているか。

法人自己評価		外部評価	
はい	いいえ	はい	いいえ
■	□	■	□

→ 法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項 目			法人全体の労力のうち 各項目が占める割合 (※1)
事業 (※2)	主たる事業	第1位：食物アレルギーサポートデスク	30%
		第2位：地域子育て支援拠点事業	25%
		第3位：食物アレルギーの若者支援研究	20%
		このほかの事業	10%
	主たる事業以外の事業		0%
事業以外（管理部門等）			15%

※1 例：総従事時間数に占める各事業及び事業以外（管理部門等）への従事時間数の割合（表の合計は、100%となる。）

※2 実施している事業の数の関係などで、「主たる事業」の「第2位」、「第3位」、「このほかの事業」欄及び「主たる事業以外の事業」欄に記入する内容がない場合は、「－」を記入

（2）組織運営について

ア 定款に定める権能に基づき、総会で審議・意思決定が行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	■	□	■	□
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。	■	□	■	□
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	■	□	■	□

イ 【定款で理事会の設置を定めている場合】 定款に定める権能に基づき、理事会で審議・意思決定が行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 定款に定める正当な招集者の範囲や方法で招集し、議案書に基づき審議を行う体制となっているか。	☒	☐	☒	☐
② 定款で定められた内容を審議事項として審議しているか。また、総会の審議事項との区分は明確か。	☒	☐	☒	☐
③ 決議や議事録署名人の選任、議事録の作成について定款に定める方法で行っているか。	☒	☐	☒	☐

ウ 監事による監査は適正に行われているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 監事はその法人における特別な立場を理解し、第三者性及び公正性が確保されているか（予算・決算書の作成者が、監査まで行っていないか等）。	☒	☐	☒	☐
② 監事は法人の理事や職員を兼務していないか。	☒	☐	☒	☐
③ 監事は定款に定める職務を執行しているか。	☒	☐	☒	☐

（３）情報公開について

法人に関する情報を公開しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 活動の状況や法人運営に係る情報をホームページ等の情報開示ツールで発信しているか。また、適時に更新しているか。	☒	☐	☒	☐
② 活動の報告等を会報誌等で情報発信しているか。	☒	☐	☒	☐
③ 法定の閲覧書類（事業報告書等、役員名簿、定款等）はいつでも閲覧することができる状態か。	☒	☐	☒	☐
④ 事業報告書等の記載内容は、外部に対して理解してもらえるように工夫※して作成されているか。	☒	☐	☒	☐

※ 例：概要の記載や、写真やデータなどを用いたレイアウト等、読み手に対して内容を分かりやすく伝える工夫

（４）コンプライアンス（法令遵守等）について

コンプライアンス（法令遵守等）の観点から組織として取組を推進しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 事業・活動に関連する法令※を把握し、遵守しているか。	☒	☐	☒	☐
② 重要な事項や個人情報を含むデータ・書類等のリスクマネジメントを行っているか。	☒	☐	☒	☐

※ 対象となる法令：特定非営利活動促進法、登記に関する法令（組合等登記令）、税に関する法令（法人税法等）、労務に関する法令（労働基準法等）、事業ごとに適用される法令（例：介護保険制度に基づくサービス提供の場合は、介護保険法）など。

(5) 外部評価について

活動内容の評価し、改善する仕組みを有しているか。

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① これ以前に外部評価を受けたことがあるか。	☒	☐	☒	☐
② 外部評価を受けた結果を、理事会等で審議する機会を設ける等、改善する機能を有しているか。	☒	☐	☒	☐

2 法人に対する支援の状況

(1) 寄附について

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 法人の事業活動のため、寄附の募集を行っているか。	☒	☐	☒	☐
② より多くの寄附を受けるための工夫を積極的に行っているか。	☒	☐	☒	☐

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項 目	法 人 記 入
① 寄附の呼掛け対象	食物アレルギー支援を行う企業、食物アレルギーに関心がある人、当法人のイベントに参加した人など
② 寄附を獲得するための取組・工夫（会報誌や法人ホームページで募集、イベントでの呼掛け 等）	寄付サイト（コングラント）、イオンレシートキャンペーンへの登録、H20 サンタ NP0 フェスティバルへの出展の他、ホームページ・ニュースレター、イベントでの呼びかけ。地域のお祭りで啓発活動による募金活動など
③ 評価対象年度における寄附者の人数及び金額	人数：延べ 84 名、11 社、1 団体 金額：363,668 円
④ 寄附金の増減及びその理由	評価対象年度の前年度から (大幅増・増・ほぼ増減なし・ 減 ・大幅減) ＜理由＞2022 年度は、企業（ロート製薬）から臨時的な高額寄付があり大幅増となっていた。2023 年度は事業型寄付の設置や当法人初となる医療系の学会に出展し、新たな分野（医療従事者）からの個人寄付を目指した。その結果、金額は少ないながらも個人からの寄付件数が増加した（2022 年度 19 件、2023 年度 25 件）
⑤ 寄附の獲得に取り組むうえでの課題	2023 年度より、事業選択型寄付の設置を行った。団体への寄付と併せて認知を広めていく必要性がある。

(2) 寄附以外の支援について

項 目	法人自己評価		外部評価	
	はい	いいえ	はい	いいえ
① 寄附以外に、市民、地域団体、行政等から何らかの支援（ボランティア、法人実施事業への協力、補助金・助成金等）を受けているか。	☒	☐	☒	☐
② ①の支援をより多く受けるための工夫を積極的に行っているか。	☒	☐	☒	☐

→ ①の法人自己評価が「はい」の場合、以下の項目について記入

項 目	法 人 記 入
① 支援の概要 (ボランティアの場合は従事人数、従事時間数、従事内容など)	【補助金・助成金】 2022 年度第二期ニッポンハム食の未来財団（団体活動支援助成）、令和 4 年度中京区共同募金公募型助成、阪急阪神 未来のゆめまちプロジェクト、ファイザープログラム「心とからだのヘルスケアに関する市民活動・

	市民研究支援」による助成 【ボランティアの状況】 (ボランティアの場合 従事人数：29 名 従事時間数：約 504 時間 従事内容：ニュースレターの原稿作成・発送作業、サポートデスクイベント準備・当日運営補助、つどいの広場絵本読み聞かせ、つどいの広場事務作業、大学生インターンの受け入れ) 【企業・個人による食物アレルギー配慮商品の提供】 10 社、2 団体、3 名 315,897 円
② 寄附以外の支援を獲得するための取組・工夫	インターン大学生の受け入れによる活動の周知 イベントに参加された方に声掛けし、ボランティアとして受け入れている 地域の子育てサークル・ボランティア団体との連携
③ 寄附以外の支援の獲得に取り組むうえでの課題	京都市外の団体との連携 職員のマンパワー不足

3 法人の事業活動に関する所見

※ 活動の意義・成果等、広く社会に対して活動の成果を発信しているか、地域団体等の他団体との連携の状況など。

FaSoLabo 京都は、2005 年の任意団体設立以降、約 20 年に渡り、食物アレルギーの子供とその家族の QOL の向上およびその社会的理解を広げるべく、事業活動を行っている。

とりわけ令和 5 年度については、「社会的理解」の取組みでは、主たる財源となっている受託事業「つどいの広場」の継続な運用（668 組、延べ 1498 人の利用）はもとより、「どれみ隊プロジェクト」が本格化し、子どもたちが主体となる活動を確認できた。子どもたちによる学会発表も素晴らしい受発信の機会になっているものと推察される。

また、「支援者支援」の取組みでは、食物アレルギーを生活モデル（福祉）で考える場「食物アレルギー相談援助研究会」が継続できているほか、ファイザー株式会社助成による調査研究が着実に進んでいることを確認した。

加えて、「当事者支援」の取組みでは、ニュースレターの発行（年 3 回）、ホームページの自前化（外注の中止）により広く社会に対して活動を発信するとともに、ティーンミート、保護者交流会の継続開催により食物アレルギーを持つ若い世代同士が意見交換する場を創造できている。

4 法人の組織運営に関する所見

※ 財務管理の透明性、組織体制の状況など。

（1）収益構造の改善について

財務管理の透明性については、2023 年度は 87,182 円の当期正味財産を残せたことを評価したい。例えば HP の内部化も経費削減に一役買ったであろうことが窺える。一方、次期繰越正味財産額は△1,242,527 円あり、決して楽観できる状態にあるわけではない。この額をさらに減らせるよう引き続きの創意工夫を期待したい。

（2）新たな理事構成の準備について

組織体制の状況については、新体制 4 年目となり、かなり安定してきている。加えて、理事構成についても 4 名の方にまずはオブザーバーやアドバイザーボードとして関わってもらい、緩やかに関わってもらう方針を確認した。監事から指摘もあるように今後はオブザーバーやアドバイザーボードの規定（内規）の整備が求められる。

5 法人に対する支援に関する所見

※ より多くの寄附や寄附以外の支援を受けるための工夫をしているかなど。

(1) 安定的な助成金の獲得について

2022 年度は 300 万を超えていた助成金が、2023 年度は約 240 万と減額になっている。業務委託料は例年 700 万程度であり、2024 年度は家賃補助があり、多少増額は見込まれるものの、大幅な増額でないことを考えると、助成金や寄付収入、あるいは事業収入を増やすことが重要である。引き続き安定財源を獲得できるよう、引き続きの努力を期待したい。助成金獲得のためにプロボノを活用するのも一案である。

(2) 寄付金の獲得のための仕組みづくりについて

2022 年度 19 件、2023 年度 25 件と、金額は少額ながらも個人からの寄付件数が増加していることは評価したい。2023 年度より、事業選択型寄付の設置を行っているとのことなので、認知を広めていく活動を期待したい。

《評価対象法人記入欄》

6 外部評価結果への対応状況

外部評価により提言・指摘等を受けた事項に対する対応状況（今後対応する場合は対応予定）

提言・指摘等を受けた事項	対応状況又は対応予定
財務管理の透明性については、2023 年度は 87,182 円の当期正味財産を残せたことを評価したい。例えば HP の内部化も経費削減に一役買ったであろうことが窺える。一方、次期繰越正味財産額は△1,242,527 円あり、決して楽観できる状態にあるわけではない。この額をさらに減らせるよう引き続きの創意工夫を期待したい。	近年、学生や子育て支援に関心が高い市民からのボランティア希望者が急増している。これまでは、イベント当日だけのボランティアを募集していたが、イベントの企画・準備段階からボランティアの方と活動を行うことで、効率的にイベントの企画運営と、人件費の削減を目指す。
組織体制の状況については、新体制 4 年目となり、かなり安定してきている。加えて、理事構成についても 4 名の方にまずはオブザーバーやアドバイザーボードとして関わってもらい、緩やかに関わってもらう方針を確認した。監事から指摘もあるように今後はオブザーバーやアドバイザーボードの規定（内規）の整備が求められる。	現在、オブザーバー、アドバイザーボードについては定款を含めて規定を設けていない。今後、理事会で定款変更の必要性についての検討と、規定の整備を進めていく。
2022 年度は 300 万を超えていた助成金が、2023 年度は約 240 万と減額になっている。業務委託料は例年 700 万程度であり、2024 年度は家賃補助があり、多少増額は見込まれるものの、大幅な増額でないことを考えると、助成金や寄付収入、あるいは事業収入を増やすことが重要である。引き続き安定財源を獲得できるよう、引き続きの努力を期待したい。助成金獲得のためにプロボノを活用するのも一案である。	事業を実施するにあたって、助成金に頼らない規模や計画・準備段階から参加者を巻き込んで実施する形でも検討していきたいと考えている。事業規模に応じて、助成金申請が必要な場合は、サポートスタッフのフォローを受けながら申請を行っていく。

寄付金の獲得のための仕組みづくりに ついては、2022 年度 19 件、2023 年度 25 件と、金額は少額ながらも個人からの寄 付件数が増加していることは評価した い。2023 年度より、事業選択型寄付の設 置を行っているとのことなので、認知を 広めていく活動を期待したい。	日頃のサポートデスク、つどいの広場での寄付の呼 びかけに加えて、一社) H20 サンタチャリティートー クの参加や、医療系の学会でのブース出展時の機会 に確実に寄付を呼び掛けていく。
--	--

備考（審査委員会のコメント）

医療系学会への出展や事業選択型寄附システムの設置など、新たなチャレンジをされている ことが評価できる。アレルギーの事業ということで、寄附の呼び掛けや事業の実施にあたって は、どうしても限られた部分があるかと思うが、企業と連携を取るなどして、これからも事業 を進めていただきたい。
--